

小浜市の 伝統行事と 食

～市民調査員による基礎調査報告～



2013

小浜市・小浜市教育委員会

ごあいさつ



小浜市長 松崎晃治

豊かな歴史と自然に育まれた若狭小浜。海・山・里が一体となった自然は、豊富な海の幸・山の幸を生み、「御食国」や「鯖街道」の歴史の根幹となったことはご承知のとおりです。また、海に開かれ、大陸半島・日本海諸国と奈良・京都を繋いだ小浜には、活発な文化交流によって生まれた貴重な文化遺産が集中しています。国宝重要文化財の社寺遺産が密集して存在し、小浜西組の町並みは重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。小浜の歴史は、刻まれる時の中で変わらず守り伝えられてきた豊かな自然と、交流によってもたらされた先進的な文化により形成されて今に継承されているのです。

さて、小浜の歴史を紹介する時、「御食国」「鯖街道」「社寺と町並み」というテーマに大きく集約できるのですが、若狭で注目されている歴史の一つに「伝統行事」があります。研究者の間では若狭は「民俗文化財の宝庫」とよく例えられます。

このことは当然とも思いますが、日本人は、ある時は脅威となり、またある時は豊かな産物をもたらす自然に「神」や「仏」を見て、祈りをささげてきました。そして多くの祈りの場である社寺が大切な場所として守り伝えられます。歴史の中には必ず自然との共生をめざした人がいます。

「御食国」「鯖街道」「社寺と町並み」の歴史のもとには人によって継承された「伝統行事」があるのです。これらの歴史遺産は伝統行事があったからこそ守り伝えられてきたとも言えます。

また、この伝統行事の中には、必ず神仏にささげる「お供え物」と人々が集まって食を楽しむ「ハレの食」があります。自然からもたらされた産物は神仏の前に捧げられ、それを祈り祝う仲間で食されます。そこには、必ず地域や旬の特徴的な食材が表出してきます。小浜の「食のまちづくり」の新たなステータスの構築が「伝統行事と食」の中に眠っているのではないのでしょうか。

しかしながら、全国的に押し寄せる少子高齢化と人口減少、地域におけるコミュニティの変化は、これらの「伝統行事と食」を大きく後退させるとともに継承の危機を迎えているところもあります。

今回の事業は、「まず市民みんなで調べてみよう！」からスタートさせたものです。そこから新発見もありました。行事の大切さを再認識できた区もあります。どのように継承していこうかという議論がスタートした地区もあります。祭りの公開や食でのおもてなしを検討され始めた地区もあるようです。

まずは行事の内容を知り続けていくこと。そこには当然、現代生活に見合った変化も必要でしょう。しかしながら、先人から伝えられてきたものをどう継承するかが今私たちに求められています。本報告が継承の一助になればと考えています。

平成25年3月

「伝統行事と食」調査の概要

本事業は、財団法人自治総合センターが全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を財源として実施している「シンポジウム助成事業」によって行った。

調査は、各地区から選出された市民調査員が、伝承されているすべての伝統行事について調査票の記入を行った。また、あわせてお供え物や膳料理についてもわかる範囲で記入をいただいている。結果、市内全域で600件を超える調査票が集まり、現在その分析を専門家とともに実施している。しかしながら拾い出しに漏れた行事も沢山あると想像できる。今後はさらに調査を進め、これらのデータをアーカイブ化して後世に伝えていくことを検討している。

市民調査員が行った調査票の項目は以下のとおりである。

1. 行事の名称
2. 実施場所
3. 実施日と実施主体
4. 実施状況（しばらく継続可・継続実施が危機的状況・現在実施していない・復活した）
5. 行事の由来や伝説
6. 行事の概要（実施の範囲や実施の内容）
7. 行事食（お供え物・行事食）
8. 行事でのおもてなし（行事での贈答など）

これらの調査票を収集後、小浜市文化財保護審議会アドバイザーで小浜市食のまちづくり条例起草委員長を務められた民俗学者 神崎宣武氏のご指導を得て、いくつかの行事について専門調査を実施している。なお、この報告書では便宜上、伝統行事を「祭礼」「講行事」「年中行事・仏事」に分類しているが、これらは複雑に関与し合って存在するため、分類はあくまでも指標であると考えていただきたい。

今回の報告書については、市内12地区の特徴および行事の一覧を示す程度のものである。今後は調査票をもとに、画像記録や聞き取り調査を充実させ、データ保管・学術的研究を進めるとともに公開やまちづくりへの活用についても市民・専門化・行政が協働で検討していく予定である。なお、本冊子は平成25年3月3日開催の「若狭おばま伝統文化フォーラム」のシンポジウム資料として作成したものである。



町場の伝統行事と食

伝統行事を考える上で地域の特徴は必ず出てくる。小浜市で「まち」と呼ばれる地域は、狭域ではいわゆる旧小浜町をさす。中世から近世にかけて港町・城下町として栄えた町人・商人の町である。今回は、旧小浜町であった小浜地区と、城下町の中で武家屋敷地であった雲浜地区および西津地区を「町場」として捉えて紹介する。

西津地区は、「津」の名のとおり、鎌倉時代から室町時代の初めには若狭でもっとも栄えた港町であった。現在も「大湊」「小湊」の地名がその名残としてある。このため、現在も続く都市的な祭礼の基礎を受け入れたのが西津であった。すでに、南北朝時代には「六月祭」の開催が文献にも見られる。ただし、西津でも北側の地域は、近世から現在にかけて漁村あるいは製塩・瓦師などの労働者機能が強い地域であり、町場と漁村・職人町の性格が混在している地域といえよう。

雲浜地区は近世の武家屋敷地開発までは、北川・南川の河口の氾濫源にある不安定な土地で、大きな町場開発がなかった地域である。しかしながら、現在の広嶺神社には、雲月宮・天神社・神宮寺という機能が平安時代末からあったことが想定され、一定の信仰の場を形成していた。祇園祭が行われていた（いる）ことを見ると、古代から中世の過渡期の信仰拠点として、隣接する今富地区の府中や西津地区、小浜地区からの信仰を集めていた聖地であったかもしれない。なお、広嶺神社は北に久須夜ヶ岳、南に多田ヶ岳という地域を代表する聖地を遥拝する場であり、このことから古代信仰を基礎としていることを示しているといえよう。

小浜という地名は、鎌倉期からようやく現れる。「小さい浜」という名のとおり、本来は居住に適さない地域であったろう。しかしながら青井や南川河口に良好な天然港が形成されるに至り、商人の集住が進んで中世後期には西津をしのぐ港町となった。近世から現在に至るまで経済を司る小浜地区として継続してきたのである。

これらの地域の伝統行事は、鉾や山車、棒振り大太鼓、神楽などを伴う神社祭礼にみられる。また、蛭子や稲荷、弁財天、金毘羅など商売や廻船に伴う信仰が色濃く、子供の祭りである地藏盆が盛大に行われている。食の中では、焼鯖を「食す」あるいは「ふるまう」という伝統が各所にみられることが特徴といえよう。



小浜地区の伝統行事と食

小浜地区は、中世から若狭の中心的港町として栄えた。このため商工業や廻船業を営む町人が集住した地域である。中世から近世にかけて創建された多様な神社仏閣が集中しており、ここを基点とした伝統行事が今に伝わっている。その中での最大の行事が、若狭最大の祭礼といわれる「小浜放生祭」であろう。放生会は行われていないが、かつて祇園祭で出された各種の出し物は、時代とともに変遷しながらも町衆の心意気を今に伝えている。各神社の祭礼時の記録（江戸時代）をみると、能・狂言・勧進相撲が多かったことがわかる。また町場らしく市祭があったことが記されている。

年中行事は意外と少ない。現在は「どんど」といっているが、江戸時代の記録では子供左義長があったようで、各御門外で飾り焼き後、子供が鉦・太鼓をたたいて「キツネガリ」が行われていた。祭礼時の食は、赤飯と焼き鯖、かまぼこが中心となる。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食
1月			どんど焼き	
2月			初午	
3月				
4月				
5月				
6月				
7月	六月祓神社（茅の輪）・蛭子神社例祭 愛宕祭・巖島神社弁天祭・庚申大祭 瀧天満宮例祭・清滝稲荷例祭		四社参り	こんにゃく（庚申）
8月	瀧不動尊例祭		地藏盆	五目ちらし（地藏盆）
9月	八幡神社例祭（放生祭）			赤飯・焼き鯖（放生祭）
10月	神明神社例祭			
11月	清滝稲荷例祭			
12月				
その他			石薬師如来供養	

雲浜地区の伝統行事と食

旧小浜城下町の武家屋敷地跡、南川・北川河口を近年開発した地域であり、伝統行事の少ない地域といえる。しかしながら、地藏盆などは各区で行われており、講に近いコミュニティの寄り合いもある。

当地区で特徴的な伝統行事といえば「お城祭り」と「祇園祭」である。お城祭りは、市内の祭礼と同様に棒振り大太鼓があると同時に、小浜藩酒井家が川越から召し連れた関東組が行っていた三匹獅子舞（雲浜獅子）が伝世されていることが大きな特徴である。祇園祭の特徴は神輿の舟渡御が行われるところである。また、祇園祭の出し物は放生祭に引き継がれているが、祭りのクライマックスには「鎌鉾取りの神事」が行われ、祇園会の名残をみることができる。祭礼食は小浜や西津と同様に焼き鯖を珍重するが、祇園祭の神饌では、ガワラ豆（大豆・ワカメ・タデ葉を煎る）という特殊なものも見られる。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食・供物
1月			どんど焼き	
2月				
3月	祈年祭（広嶺神社）			
4月				
5月	小浜神社例祭（お城祭り）			赤飯・焼き鯖（お城祭り）
6月				
7月	広嶺神社例祭（祇園祭）			赤飯・焼き鯖・ガワラ豆（祇園祭り）
8月			地藏盆	
9月				
10月				
11月	新嘗祭（広嶺神社）			
12月				
その他				

西津地区の伝統行事と食

西津地区は、中世初頭に若狭随一の港町として栄えたところで、小浜に先行して都市的な場が成立したところである。南北朝時代には「六月祭」の実施が古記録に記されており、市内の都市型祭礼の原型が西津にある可能性がある。このことから市内の棒振り大太鼓の元祖であるという伝承も頷ける。また、近世以降は廻船業の他、漁業や商工業の町でもあり、宗像神社の西津七年祭では、廻船模型の「船玉」や船形屋台が巡行し、丹後地方から若狭地方西部に見られる太刀振りも残っている。注目したいのは単なる祭礼巡行ではなく棒振りが辻々で古流の祓いを行うところで、古い都市祭礼形態を残す。

その他、当地区では各区や集合体で地藏盆が盛大に行われる。また、井戸替えという共同井戸の清掃が集合体で行われていた。

祭礼食は小浜・雲浜と同様に赤飯・焼き鯖を珍重する。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食・供物
1月			どんど焼き	
2月			初午祭	油揚げ(初午)
3月				
4月				
5月	釣姫・玉津島・日枝神社例祭(西津祭) 宗像神社例祭(西津七年祭)			赤飯・焼き鯖・粥(祭礼)
6月				
7月	祇園祭			
8月		板屋町観音講	地藏盆・井戸替	スイカ・ブドウ・饅頭など(地藏盆)
9月				
10月				
11月				
12月				
その他	金毘羅宮例祭	板屋町観音講(年4回)、福谷庚申講		

海辺の伝統行事と食

海辺の伝統行事と食は、若狭小浜を語る上で外すことができない。海に面した地域は、前述した小浜・雲浜・西津地区と後述する加斗地区があるが、本項では最も特徴的な文化を示す内外海地区について述べることにする。

内海（小浜湾）に面した各区は町場の影響を受けた文化もあるが、外面にある各区は近年まで陸の孤島というべき場所であった。このため生活共同体としての区の基盤が強固であり、数多くの伝統行事や食文化を今に伝えている。また、峠を越えた田園地帯である国富地区や宮川地区との交流は、海の幸と米を交換する上で必須であったため、文化としての共通点も見出すことができる。古くは「里親」といって、米と海産物を交換するイエを各区各戸で持っており、他の人が行くことは許されなかったという。

社寺を概観すると、多田ヶ岳と並ぶ小浜の神体である久須夜ヶ岳と久須夜神社があり、同じく式内社である椎村神社がある。また、地区から遥拝可能なためであろうか、白山社を祀る神社が多いのも特徴であり、古代末から中世にかけての白山信仰の受用を見て取れる。

海に面した内外海地区は、大陸や日本海諸国との交流の窓口でもあった。泊区にある若狭彦姫神社は、若狭一宮に祀られる彦姫神が最初に逗留（泊）した地に勧請されたという。甲ヶ崎区・阿納尻区はおだやかな内海に面し、象の渡来や港としての隆盛などの古い津の伝承を残している。矢代区では、渡来漂流の民の伝承を民俗行事とした「手杵祭」もある。現在は漁村となっているものの若狭の玄関ともいえる地であった。中世においても日本海交易を担った刀禰の活躍が多数の古文書から判明している。

この地区の伝統行事は基盤が強固な独立した区が多いため、講行事が数多く残っているのが特徴である。また、正月の舟祝いや弓射ち、盆の精霊船など、多彩な年中行事も伝承されている。特に舟を用いる生活のため、その安全を祈る行事である「舟祝い」や風を治める「八朔」、祟りを避けるための習俗「産室・産小屋」という文化があったことも注目される。食に関しては海辺の特徴も顕著にみられ、特に「鯖」を供え物や共食に用いる行事が多くみられる。



内外海地区の伝統行事と食

近年まで交通網整備が遅れ、独立した空間コミュニティであったため、強固な区基盤を引き継いでいる。その特徴は多彩な「代参講行事」に見られる。また、年中行事が良好に伝承されている。特に正月行事では「弓射ち」が行われているところが多く、戸祝いや舟祝い（古くは海祭りなど）もあり、市内では当該地区の特徴的な年中行事といえる。市内では少なくなった節句ごとの集合や、農村部でも少なくなった「ツクリゾメ」を残す区も多い。祭礼行事では、大陸との関係を示す「手杵祭」、小浜で唯一残る「王の舞」など海外や京都などとの交流文化を示す行事があることが特徴といえる。

食は、海のことを神饌や共食に用いることが多いが、特に鯖を用いる事例が多い。山菜を用いることも他所に比して多い傾向にある。また、米が貴重品であったため、団子、ませ餅を用いることも多く、古くから「粉引き歌」があったことが知られている。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食・供物
1月		お日待ち講・行者講・大般若経・数珠繰り・観音講・愛宕神社講・山の口講・ゆみの事・神明講(伊勢代参)・篤講	どんど焼き・牛王神事・弓射ち 戸祝い・舟祝い・どうど神送り無言参り・若水酌み・聖霊参り・どんごもり・ツクリゾメ	白餅と青餅・塩鯖切り身(弓射ち)・戸祝い(せんざい)・鯖の煮つけ(弓のこと)・おこぜ(山の口)
2月		行者講・愛宕神社講・念仏講・篤講	正月・山入り・涅槃団子・初午	オモク(正月)・油揚げ(初午)
3月	秋葉社祭	行者講・愛宕神社講・念仏講・篤講	祈念祭・祈願祭・彼岸祭・大火災桃の湯	おひたし(秋葉祭)・三色団子(涅槃会)
4月	白山神社・若宮八幡・熊野・日枝神社例祭・手杵祭	行者講・愛宕神社講・念仏講・篤講	節句神事・甘茶	白餅と青餅、へらも味噌和え、なれずし(手杵祭)
5月	白山・斎・加茂・田島天満神社例祭・椎村神社王の舞	行者講・愛宕神社講・念仏講・篤講・観音講	卯月八日・灌仏会	鯛、タコ、わかめ(田島)・鯖、鯛、平目(椎村)
6月		行者講・愛宕神社講・念仏講・篤講・観音講	小正月・節句神事	
7月	祇園祭	行者講・愛宕神社講・念仏講・篤講		
8月	酒事	行者講・愛宕神社講・念仏講・篤講・六斎念仏	精霊船送り・盆踊り・節季	
9月	八朔・酒事	行者講・愛宕神社講・念仏講・篤講・数珠繰り お日待ち	かぶら祭り・彼岸会	団子(数珠繰り)・かじき刺身、いなり(酒事)
10月	春日神社例祭・氏神・新嘗	行者講・愛宕神社講・念仏講・篤講	節句神事・神送り	
11月		行者講・愛宕神社講・念仏講・篤講・山の口	祈念祭・神迎え	ぬた、甘酒(山の口)
12月	新嘗祭	行者講・愛宕神社講・念仏講・篤講・山の口講 お日待ち講	禰宜渡し神事・千度参り・祈願祭・釜戸清め	わらび、甘酒(山の口)
その他			各節句	

飯盛山周辺・南川流域の伝統行事と食

当該地区は、小浜市域の南西部の地域であり、少なからず隣接する大飯郡（現おおい町）との行事の共通性を見ることができる。また、地域の後背には飯盛山という霊山を持ち、この山を媒介とする信仰や行事があることも特徴的である。旧大飯郡域で海を持つ加斗地区と、京都へ向かう周山街道沿いの中山間である口名田地区・中名田地区を同一には扱いにくいのが、前述の理由により本項でまとめて紹介する。

加斗地区は小浜湾に面した海辺の地区であり、かつ本所川・飯盛川流域に農耕地が展開している。また、背後には飯盛山がそびえ、山麓には黒駒信仰や行者信仰が点在する。飯盛山を神体とする飯盛寺が各区の信仰や行事の別当を務め、さまざまな年中行事や祭りを伝承させている。海に根付いた生業も少なからずあったようで、小浜湾に浮かぶ蒼島には弁財天が祀られている。また、古くから、かわらけや瓦などの焼き物が盛んであった地域でもあり、近世には亀焼というブランドが確立していた。

口名田地区は、飯盛山の東麓、多田ヶ岳の西麓に位置する南川中流域の地区である。小浜から京都へ南下する周山街道沿いに展開し、古代には須恵器、近世以降は若狭瓦を産物とした。また、大規模な耕地はないものの、ネギやごぼう、大根などの産地として知られた。飯盛・多田に関連する社寺があり、神仏信仰が盛んなため数多くの講行事を今に伝えている。

中名田地区は、飯盛山の南麓、南川沿いの中山間地域で、山村であるおおい町名田庄地域に隣接している。古くは田村と呼ばれ、坂上田村麻呂の開拓を伝える地域である。このため由緒ある神仏習合の社寺が数多く、これに伴う行事を今に伝えている。古くは和紙や炭を製造していた。

これらの地区の伝統行事の特徴は、神仏信仰に伴う講が数多く伝承されていることと、松上げやお火焚きなどの火の行事を伝えているところにある。飯盛山を媒介とした神仏信仰は、古代から国家と密接に関係した若狭国の主要な信仰であった多田ヶ岳信仰とは一線を画している。より地域性が高く、古代からの信仰を基盤とした中世以降の農耕住民による熊野修験の受け入れを見てとれる。また、通称「松上げ」の道といわれる京都から若狭への道に隣接しており、松上げのみならず、京文化を受け入れた行事が多くみられる。



加斗地区の伝統行事と食

海沿いにありながら、海に関連した祭礼や年中行事はあまり見られず、農耕や神仏信仰に伴う伝統行事が多い。それぞれの講行事は各戸を宿として回るより、地区にある大日や毘沙門・阿弥陀な・観音などの小堂において行われているところが多い。また、神社では黒駒社信仰が大きく、地区の各行事では飯盛寺が別当を務めることが多い。東部の勢区では海に関係してかわそ祭りが盛大に行われる。

特徴的な行事に、勸請札・勸請綱の行事がある。正月に村の入り口に邪気を祓う勸請札や勸請綱を置くもので、若狭東部の大飯郡に若干事例が見られる。現在はツクリソメや行者講とも習合して受け継がれている。

特徴的な食は、神饌のおしろもちである。また、ハレの宴でトビウオを食するという報告がある。また神饌は昔「つと」と呼ばれる藁の器に盛られていたという。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食・供物
1月	黒駒神社元旦祭	山の口講・地蔵講・六日講二十日講(勸請綱)・阿弥陀講・お日待ち講・愛宕講	どんど焼き・仏法始め・総祈祷・ツクリソメ	カレイ干物(仏法始め)・おしろ餅等(山の口)
2月	黒駒神社祈願祭	涅槃講・徳講(数珠繰り)	祈願祭	
3月		観音講・三日講(勸請札)・彼岸講	花當祭・種おろし	
4月	黒駒神社例祭		行者堂祭神	
5月		お日待ち講	天道花(卯月八日)・五月休み	トビウオ寿司、鯖寿司、柏餅、ちまき(五月休み)
6月		愛宕講		おしろもち(愛宕講)
7月	かわそ祭り・蒼島弁天祭		御一日	きゅうり、なす(かわそ)
8月		観音講・阿弥陀講・六斎念仏・男念仏	久保の観音祭・大日祭	
9月	黒駒神社例祭	観音講・愛宕講・阿弥陀講・彼岸講	久保の観音祭・御百燈・八朔・行者山祭	おしろもち(愛宕講・八朔)
10月			菊當会	
11月	黒駒神社新嘗祭		水神祭・新嘗祭	
12月		山の口講・神迎え講		酒を混ぜた餅(山の口講)
その他		御神女講・稲の祝講		

□名田地区の伝統行事と食

南川の中流域の周山街道沿いにあり、古くは物資の輸送に川船も用いられていた。行事の特徴として挙げられるのは松上げとお火焚きである。ともに火を使う行事であり、京都文化の影響をみることができる。また、六斎念仏は「盆行事」として市内各所に残っているが、当地区の六斎念仏は講行事として、六斎日に各家庭を回って行われている。また、都市祭礼の影響を受けており、ハレの上演では「道化役」が登場し「神楽囃子」の調子もつく。

薬師や十一面観音、馬頭観音などの密教信仰が各区のお堂に残っており、多田ヶ岳や飯盛山の信仰に関連したものである。

特徴的な食は戸祝いの小豆粥である。戦前戦後までの農村の年中行事のハレの食には、市内の至る所で頻繁に小豆粥が登場するが近年は稀である。亥の子のぼた餅の風習もわずかに残る。神饌にアユや松茸などの地の旬物を供えるのも最近の画一化した神饌とは一線を画する。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食・供物
1月		山の口講・妙見講・清善講・お日待ち講 薬師講・六斎念仏（仏法始め）	どんど焼き・戸祝い	小豆粥（戸祝い）・鯖、すり餅（山の口講）
2月		清善講・妙見講・六斎念仏講・薬師講 山の口講		小鯛、すり餅、タタキ菜（山の口講）
3月	若宮八幡神社かぶら祭・若宮神社かぶら祭	清善講・妙見講・六斎念仏講・	薬師如来例祭・涅槃会	花団子（涅槃会）
4月	春日神社例祭・若宮八幡神社例祭	清善講・妙見講・六斎念仏講・薬師講	愛宕供養	
5月	日枝神社例祭	清善講・妙見講・六斎念仏講・薬師講	卯月八日・野上がり休み	柏餅（野上がり）
6月		清善講・妙見講・六斎念仏講・お日待ち講・薬師講		
7月		清善講・妙見講・六斎念仏講・薬師講	水神祭・三十三番祭礼（つもごり盆）・聖観音供養・愛宕供養	
8月		清善講・妙見講・六斎念仏（みたま） 愛宕講・薬師講・数珠繰り	延命地藏祭・地藏盆・松上げ・盆踊り	煮しめ、菜ひたし（地藏盆、松上げ）
9月	若宮八幡神社例祭	清善講・妙見講・六斎念仏講・薬師講	遠敷上下宮参り・薬師如来例祭 馬頭観音ご祈祷	
10月	若宮神社例祭・六所神社例祭	清善講・妙見講・六斎念仏（鉦納め）・ 薬師講		落アユ、松茸、山芋（若宮神社）・ぼたもち（亥の子）
11月	若宮八幡神社新嘗祭・日枝神社例祭	清善講・妙見講・薬師講・上窪氏系地の神講	亥の子・神迎え・すぎもり・お火焚き	ぼた餅（亥の子、地の神講）・椎茸、山芋（日枝）
12月		清善講・妙見講・山の口講・薬師講	お火焚き	
その他				

中名田地区の伝統行事と食

飯盛山南麓・南川中流と支流の田村川流域に開かれた中山間地域である。伊勢や愛宕の代参講やお日待ちが残っているが、講行事として特徴的なのは地の神を祀る株講である。11月に氏姓が同じものが集まり各株が所有地にある小祠や磐座・神木を祀り、講宿で直会する。いずれも氏神を迎え、ぼた餅を供える。市内では口名田の一部と中名田に残り、ダイジョゴとして国富や松永、内外海の一部にも伝わる。口名田と同様に松上げも多く実施される。

また、金毘羅、愛宕、稲荷などの各小祠でも祭礼や講が営まれている。加茂神社の例祭では、棒振り大太鼓と神楽が出るが、天狗・夜叉・おこべなどの多彩な道化が先導する。小浜祇園祭の江戸時代の絵巻物には、このような事例があるが、今現在、祇園祭や放生祭では見られなくなっている。

神饌物にすり餅やぼた餅が多く用いられている。また祭礼では焼き鯖が珍重されている。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食・供物
1月		山の口講・報恩講・お日待ち講	どんど焼き・ツクリソメ・キツネガエリ(戸祝い)	
2月		お日待ち講・報恩講	初午	油揚げ、ぼた餅(初午)
3月	日枝神社例祭・苺田姫神社例祭		彼岸会・涅槃会	花団子(涅槃会)
4月		広峰講、伊勢講	旧節句・松尾寺参り・五月休み	焼き鯖(伊勢代参講)
5月		報恩講	卯月八日・松尾寺参り・五月休み	柏餅、ちまき(五月休み)
6月		報恩講		
7月	愛宕祭	報恩講	半夏生	赤飯、焼き鯖(愛宕祭)
8月		六斎念仏	みたま・松上げ・地藏盆・盆踊り	
9月	加茂神社例祭・田村薬師例祭	報恩講	二百十日祭・薬師祭・彼岸会	
10月	日枝神社例祭・加茂神社例祭・苺田姫神社例祭	地の神講・門徒講		赤飯、焼き鯖(加茂神社)
11月		地の神講(地祖神)・報恩講・山の口講	神迎え	ぼた餅、枝豆(地の神講)・すり餅(山の口講)
12月		報恩講		
その他	稲荷神社例祭	金毘羅講・落着講・各節講		

多田ヶ岳山麓・北川流域の伝統行事と食

当該地区は小浜市の東部地域であり、北川の氾濫源および各支流域に存在する。若狭の中でも最も大きな穀倉地帯である。後背には多田ヶ岳を持ち、山麓には創建の古い神社仏閣が密集しており、古くからの人の集住と信仰をみてとれる地域といえる。南側の遠敷谷や松永谷は、峠を越えて近江や京都に至る古代からの主要道路であり、北川を東進して保坂を越えれば琵琶湖や京都につながる各街道に至る。文化を受け入れた港と京都・奈良をつなぐ交通の要衝であり、古代には国の政治拠点が置かれた。

今富地区は古くは小浜地区や雲浜地区の一部まで包含していた今富名に由緒がある地域である。中世に起因する「今が富む」の名のとおり、その成立は遠敷地区や国富地区に比べると後発するが、多田ヶ岳山麓には多田神社や多田寺、妙楽寺などの信仰地が集中している。

国富地区は「国が富む」の名のとおり、北川河口の旧ラグーンを耕作地とした田園地域で、古代からの信仰拠点である羽賀寺などがある。中世には国富荘、太良荘などの荘園として栄えた。このため農業生産を生む地域コミュニティの絆が深い。

遠敷地区は古代から若狭国の拠点であり、一宮の若狭彦神社や若狭神宮寺、若狭国分寺などの由緒ある社寺が密集し、それらと深く関係しながら伝統文化が伝承されている。また、中世以降は若狭姫神社前に門前市場が成立し、商工業者の集住も進んだ。農業・林業・商工業などの多様な信仰を生む基盤となった。

松永地区は若狭町上中地域から続く古墳群がある地域で権力者の居住は古く、これを基盤に小浜で最も古い仏教寺院として太興寺廃寺が成立した。その後、松永八幡宮や明通寺も創建され、地域の信仰形態を考える上で欠くことのできない地域である。

宮川地区は賀茂別雷神社と深く関係した宮河荘（賀茂荘）・宮河保であった。山を越えて海沿いの矢代区とも繋がりが深かった。地域には密教信仰のお堂が多く、神仏習合事例としては、加茂神社とその神宮寺であったであろう為星寺がもっとも顕著な事例であり、由緒ある仏像・行事を残す。

特徴としては、農耕儀礼にともなう年中行事を色濃く残すことではなかろうか。また、神仏講と農耕行事の習合も見られる。他地区に見られない特殊な行事も散見される。



今富地区の伝統行事と食

郊外の新興住宅開発が進み講行事の衰退もみられるが、特徴的な講行事も多く残る。男子の天神講、女性をもてなす弓のことが広く分布している。特殊な講としては還暦を祝う「口開け講」がある。かぶらの漬物の樽口を年で初めて開けることに由来し、ヨメナの和物・大豆和物という特徴食がある。また、お日待ち講は他所では見られない(一部遠敷地区にあり)火伏せの行事としても残っている。

祭礼は神社と寺院が融合した行事が多く、妙楽寺六所神社の朝鉾神事や多田六所神社の八朔がある。また、愛宕社では勇壮な松明行事があり、各神社ではお火焚きを行うところもある。また、町場に近い行事として市塔供養に由来する「和久里壬生狂言」が伝わっている。

食の特徴として、神饌物としてすり餅、ハレの食として小豆飯があり、かつて愛宕祭ではサトイモの小豆餡まぶしがあったという。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食・供物
1月		お日待ち講・お宮講・観音講	どんど焼き・修正会・初祈祷 ツクリソメ	
2月	八幡神社大祭	天神講・弓の事		
3月	多田神社新年祭・八幡神社ご祈祷	山の口講	種粉ご祈祷・豊作祈願祭・初午 涅槃会・彼岸会	すり餅(山の口講)
4月	総社神社例祭・八幡神社春季大祭・多田神社春季大祭・蔵島神社新嘗祭・熊野神社例祭・今富神社大祭	口開け講	弓射ち・花祭り	ヨメナ和えもの、大豆和えもの、かぶら漬物(口開け講)
5月	六所明神蔵島神社祈願祭 朝鉾神事		塔婆供養・卯月八日・五月休み 子供神輿(田の神)	小豆飯(朝鉾神事)
6月		行者講	多田寺大般若祈祷会	
7月	祇園祭・愛宕祭	行者講・愛宕講		サトイモ小豆餡まぶし (愛宕祭)
8月		観音講・地藏盆		
9月	八幡神社秋季例祭・六所神社八朔祭 熊野神社例祭		お百度・彼岸会	
10月	八幡神社秋季例祭		多田寺大般若経	
11月	今富神社大祭・新嘗祭	報恩講		
12月	多田神社新嘗祭	山の口講	お火焚き	すり餅(山の口講)
その他		お日待ち	和久里壬生狂言(宝篋印塔供養)	

国富地区の伝統行事と食

若狭を代表する穀倉地帯として荘園の歴史をもつ。農耕コミュニティを大切な共同体としており、それぞれの地域寺院や堂を基点とした講行事が多い。近くの社寺を毎日持ち回りで参詣する「日参」も多く残っている。特徴的なのは農作に伴う年中行事が他地区より色濃く伝世しているところにある。豊作を祈る正月のツクリゾメ、田植え前のタナゾロエやサビラキ、田植え後のサナブリや子供神輿（田の神祭）がある。サビラキにはフキの葉に大豆とワカメを乗せ、田の神祭りでは柏餅や焼き鯖を食べる。古くは7月の半夏生にサツキヤスミを行っていたことも江戸時代の古記録に見え、この時にも焼き鯖を食している。節分には煎り豆で豊凶年占いも行われていた。また、カヤの葉をかまどの火にくべて鳥獣害の名を言いながら豊作を願うことも行われていた。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食・供物
1月		伊勢講・山の口講・お日待ち・観音講 御大師講・神明講・愛宕講・六斎念仏・ 行者講・庚申講・阿弥陀講	どんど焼き・左義長・ツクリゾ メ・悪魔祓い	甘酒、オシロイ餅（山の 口）・黒豆、タタキゴボウ、 昆布巻き（ツクリゾメ）
2月	羽賀姫神社生誕祭（オタマサン）・一言 神社大祭（弓射ち）	神明講・愛宕講・山の口講・観音講・ 天神講・弓のこと・阿弥陀講	涅槃会	ゴク飯、カラシ和え、大 豆ホンダワラ（一言）
3月	日枝神社祈願祭・丹生神社祈願祭・若 宮神社祈願祭・山神社例祭	弓のこと・愛宕講・六斎念仏・山の口講 観音講・阿弥陀講		大根味噌挟み（山の口）・ 膾、ゴマメ（タナゾロエ）
4月		愛宕講・観音講・阿弥陀講	タナゾロエ	
5月	阿奈志神社例祭・日枝神社例祭・春大 祭・春季祭・春祓い	六斎念仏・愛宕講・神明講・観音講・阿 弥陀講	卯月八日・子供神輿（田の神祭） 五月休み・サブラギ	大豆とワカメをフキの葉 で包む（サビラキ）
6月		産土講・愛宕講・観音講・阿弥陀講	秋葉さん石塔供養	
7月	祭礼	秋葉講（大火祈祷祭）・愛宕講・観音講 阿弥陀講	大般若・明神祭	ゴク飯（秋葉講）
8月		地藏講・六斎念仏・百万遍数珠繰り・観 音講・阿弥陀講	地藏盆・盆踊り・不動祭	ぼた餅（地藏盆）
9月	日枝神社奉納踊り祭・秋のお祓い	お日待ち・百万遍数珠繰り・神明講・六 斎念仏・観音講・阿弥陀講	御陵さん	ゴク飯（御陵さん）
10月	羽賀姫神社・阿奈志神社・一言神社・ 丹生神社・若宮神社各秋季例祭	愛宕講・観音講・阿弥陀講		大根塩もみ、枝豆、さつ まいも（若宮神社）
11月		秋葉講・愛宕講・観音講・阿弥陀講		
12月	新嘗祭	愛宕講・山の口講・六斎念仏・観音講 伊勢講・阿弥陀講・間の講・もちお講	大將軍	小豆飯（大將軍）・せんざ い（間の講、もちお講）
その他		吉祥講・庚申講	日参・若衆初集会・大谷山濡れ 手の観	

遠敷地区の伝統行事と食

多様な講行事が地域の神仏信仰と関係しながら残っている。また、戸祝いやツクリソメ、子供神輿（田の神祭）も残っている地域である。

市内の神社祭礼や講などでは、禰宜とよばれる旧家や持ち回りの禰宜当家が主体的に運営することがあるが、下根来区の手向山八幡宮では一和尚が前年に小浜八幡宮前で精進潔斎して、神宮寺桜本坊を別当として一年の当役を務める。特徴的な行事に、お水送り当日に実施される「山八講」がある。赤土を舐め、山と八という字を堂の柱に書く特殊な行事であるが、おそらく豊作祈願によるものと考えられる。一部に山師・鉦山師との関連を想定するむきもある。

若狭一宮の祭礼は、棒振り大太鼓、神楽をともなう都市型祭礼として実施されている。食に関しては小豆飯を神饌とする場合が多い。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食・供物
1月	総祈祷	お日待ち講・薬師堂講・行者講・金毘羅講・大神宮講・愛宕講	どんど焼き・戸祝い・ツクリソメ・修正会・弓のこと	小判菓子(戸祝い)
2月		薬師堂講・毘沙講・山の口講・嶋田講		
3月	小浴神社例祭	薬師堂講・中ノ宮講・涅槃会・愛宕講 山の口講・権現講・山八講	涅槃会・修二会・お水送り	小豆飯(山の口講)・花団子(涅槃会)
4月	熊野神社例祭・かぶら祭・秋葉三尺坊 大権現祭	秋葉神社講・薬師堂講・玉守講		
5月		お日待ち講・愛宕講・薬師堂講・山王講	子供神輿(田の神)・五月休み	
6月		薬師堂講・行者講・金毘羅講・大神宮講 愛宕講	節句	
7月	祇園祭	薬師堂講・愛宕講	大祓い	
8月		薬師堂講	地藏盆・宮籠り	
9月		お日待ち講・愛宕講・薬師堂講	盆踊り	
10月	若狭彦姫神社例祭(遠敷祭り)・小浴神社例祭	行者講・金毘羅講・大神宮講・愛宕講		
11月		薬師堂講・愛宕講		
12月	熊野神社例祭・小浴神社例祭	薬師堂講・山の口講	お火焚き	小豆飯、焼き笹餅(山の口講)
その他			日参・烏帽子	

松永地区の伝統行事と食

簡素化や講の合併が進むものの多様な講行事を残している。特徴的なのは、寺院で二十三夜待ちが行われているところである。また、市内に残る弓のここと同様のものであるが女愛宕講という名称の講行事がある。

特徴的な行事として「はったい祭」があげられる。はったい粉を食す行事で、今回の調査で市内には同様の行事はあげられなかったが、農村では近年まで親しまれていた食の一つだろう。また、稲刈り後の「いも煮会」や、かわそ祭りでのきなこ餅のお供えなどがあり、小豆粥・小豆飯・ぼた餅などを珍重する他地区との違いが出ている。

年中行事としてはツクリソメや田の神祭りが残り、神社祭礼では弓射ちを残している神社がある。また台風前の祈願である「願かけ」、無事に収穫できた「願ばらし」という神事がある。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食・供物
1月		愛宕講・山の口講・お日待ち・行者講 金毘羅講・合併講・妙見様・天神様	どんど焼き・ツクリソメ・大般若	小豆飯握り(山の口講)・煮しめ(お日待ち)
2月		二十三夜待講・神事講・ゆみのこと・女愛宕講・山の口講	節分	
3月	日枝神社例祭・泉神社祈年祭	神事講(弓射ち)	涅槃会	団子、ぼた餅(涅槃会)
4月	日枝神社例祭・泉神社例祭	八社様・天神様	節句・面山祭・田の神祭	赤飯、焼き鯖(日枝神社)
5月			子供神輿(田の神)・泥落とし 神事・五月休み	
6月		神明講・お日待ち・妙見様	節句・はったい祭	はったい(はったい祭り)
7月		土用の講	すり鉢くぐり・かわそさん	きなこ餅(かわそさん)
8月			願かけ・地藏盆・三番滝不動祭	
9月		神事講・いも煮講	願ばらし・放生会	
10月		二十日講・お日待ち講・妙見様	願ばらし・お火焚き	
11月	日枝神社例祭		お火焚き・お会式・八幡様参り	
12月	新嘗祭・ふぶきまつり	山の口講・妙見講・天神様	観音祭・大祓い・大將軍祭	煮しめ(天神講)、赤飯(大將軍祭)
その他		七面講	日参	

宮川地区の伝統行事と食

特徴的な行事を伝承している地区である。まず一つ目は「オイケモノ」である。加茂神社上の宮に前年埋納した種のをとりだし、その芽立ちにより豊凶を占うものである。神事としての年占いは市内を探してもない。社務所から上宮までの道中では弓射ちも行われる。なお、行事では牛の舌餅が神饌となる。

年中信仰としては、若狭町上中地域にもあるが、廻り地蔵が続けられている。厨子に入った地蔵（阿弥陀）を持ち回るもので、各家庭で数日の間祀って次の家に回す。区単位あるいはそれ以下のコミュニティーで行われる行事とは別のもので、大きな地区信仰を知る上で貴重である。

ツクリソメや田の神祭りなどの農耕に関連する行事も良好に伝承しており、特徴的なのは戦前戦後まで市内各所で行われていた「虫送り」が今もしっかりと伝承されているところにある。



	祭 礼	講行事	年中行事・仏事	特徴食・供物
1月		お講・山の口	戸祝い・廻り仏・ツクリソメ	
2月	加茂神社のオイケモノ	お講	廻り仏	
3月	貴船神社祭礼・秋葉山祭礼	お講・遊身の事・数珠繰り	廻り仏・祭の神祭り	
4月		お講	廻り仏	
5月		お講	廻り仏・子供神輿（田の神祭）・五月休み	柏餅、ちまき（子供神輿、五月休み）
6月		お講・愛宕講	廻り仏	
7月	愛宕神社祭礼	お講・愛宕講	廻り仏	
8月		お講	廻り仏・地藏盆・不動尊祭・虫送り	ぼた餅（地藏盆）
9月	秋葉山祭礼	お講	廻り仏・為星寺観音祭	
10月		お講	廻り仏	
11月		お講	廻り仏	
12月		お講・山の口	廻り仏	
その他				

当たり前風景の中に日本に誇る文化がある若狭おぼま



小浜市の伝統行事と食
～市民調査員による基礎調査報告書～
2013.3
小浜市・小浜市教育委員会

本事業は、市民シンポジウム「若狭おぼま伝統文化フォーラム」にあわせ作成しました。
本事業は、全国モータボート競走施行者協議会からの拠出金をうけて実施しています。